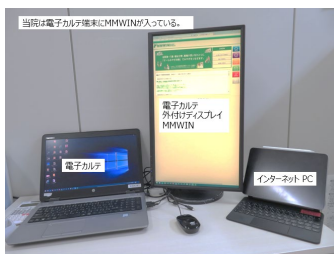


「第3回保険薬局のためのMMWIN活用WEB講座」 の振り返りと薬業連携の効果について

普段より、他院で実施した化学療法の前投薬や使用していた薬品などの履歴をMMWINで参照し、ご自身の患者指導に活かされている東北労災病院 薬剤部 主任 熊谷 史由先生。講演では、今年5月に開始されたMMWINのコミュニケーション機能（チャット機能）を用いたトレーシングレポート（TR）の授受についてお話されました。この取り組みにより、病院側では、TRの応需、カルテ取り込み、薬局薬剤師との意思疎通がパソコン1台で完結できること、薬局側では紙の印刷やFAX送信がなくなることをメリットとして挙げられました。

2つ目の講演は、司会も務めていただいた東北大学病院 薬剤部 副薬剤部長 松浦 正樹先生です。関連薬局および院内の状況報告により、ツール申請施設は161施設に増え、入院時服薬情報提供については、およそ9割がMMWINを介して応需されているとのこと。また、宮城県における今年度の認定薬局整備事業では、引き続きMMWINの利活用促進や広報活動、MMWIN活用モデルの創出をご検討いただいているとのことでした。

セミナー参加者からは、「今まで、患者さんがMMWINに加入されているか分からなかったり、MMWIN端末が近くにないため活用できていなかった。薬業連携ができれば、かなりスムーズに調剤も進むだろう。」「薬局の役割を拡大する必要性を実感した。」などのコメントをいただきました。



熊谷先生のデスク環境（講演資料より抜粋）



左より 松浦 正樹先生、熊谷 史由先生

お知らせ

MMWIN事務局からのお知らせです

《定時社員総会を開催いたしました》

2023年度定時社員総会が、7月28日（金）に開催されました。「2022年度 事業報告」、「2023年度 事業計画及び収支予算」についての報告とともに、決議事項として「2022年度 決算の承認」、「役員の選任」が提案され、承認となりました。

《MMWIN加入申込書について》

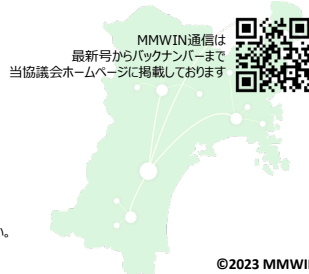
加入申込書がリニューアルいたしました。詳しくはホームページに掲載しております。印刷もできるようになっておりますのでご活用ください。



一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町1 丁目15 番19 号
【事務局】
TEL：022-395-6312 FAX：022-395-6313
E-mail：office@mmwin.or.jp URL：http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】
TEL：022-399-6880 E-mail：support@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。



©2023 MMWIN

全医療・介護・福祉分野、職種が想いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



MMWIN® 通信
みんなのみやぎネット® NEWS

2023
9.22
vol. 74

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

大崎地域におけるMMWINの活用 ー公立病院経営強化プランの策定に向けてー

令和4年3月、総務省は「公立病院経営強化ガイドライン」を発出し、地方公共団体に対し、限られた医療資源を地域全体で最大限効率的に活用するという視点を重視し、その地域に必要な医療提供体制を確保するために、病院事業の経営強化に取り組むよう要請しました。

大崎市、色麻町、加美町、涌谷町及び美里町の大崎地域1市4町では、大崎地域における持続可能な医療提供体制の実現に向けて、各自自治体と各公立病院が役割・機能の最適化や、医師・看護師等の確保と働き方改革への対応等のため協議を重ね、連携協約締結の準備を進めています。その取り組み事項の1つとして、MMWIN環境の有効利用による医療情報の連携体制強化が挙げられております。

基幹病院や二次救急病院、自治体立病院を中心とし、当該圏域多くがMMWINに参画されていることから、機能分化や情報連携強化の下地は整っていると考えます。当協議会では以下のようなシーンを想定し、広くMMWINをご活用いただけるよう取り組んでまいります。

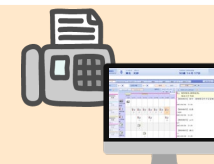


参考：大崎市一公立病院経営強化プラン策定に關する住民説明懇談会（更新日：2023年07月12日）

現状（課題）と活用シーンの想定

退院・転院調整にFAXを使用 → MMWINネットワーク上での送受信

- ◆ 転院申込書や返書をMMWINで送受信、検査値はカレンダービューアで参照
- ◆ 逆紹介時、かかりつけ医で大崎市民病院での処置内容を参照
- ↳ FAX廃止による誤送信リスクや文字不明瞭の解消
- ↳ 患者紹介後でも治療経過を把握、逆紹介時にはより詳細で広範囲な情報を参照



大小河川が多く、氾濫や冠水が起りやすい → 災害時の情報共有

- ◆ 災害時用MMWIN参照環境（オフラインビューア）を大崎地域に配備
- ◆ 透析施設被災時に備え、大崎市民病院に透析患者情報を共有
- ↳ 災害により診察・処方が難しくなったり、電話やFAXの不通の場合でも、スムーズな情報共有が可能



関連施設との情報共有 → 遠隔カンファレンスの活用

- ◆ MMWINのネットワーク通信を用いたカンファレンスの導入
- ↳ 患者様の転院後のフォローやDr同士の意思疎通が目的



県内5分の1の耕土を持つ大崎地域では、当然ながら患者さんの通院や医療介護従事者の移動に時間を要します。MMWINネットワークを介する診療・介護情報の連携、医療従事者と患者さんのオンラインによる意思疎通等により患者さんおよびご家族の負担軽減や、医療従事者の働き方改革にも貢献できるのではないかと考えております。さまざまなシーンでMMWINをご活用いただけるよう、地域自治体や医療機関と足並みを揃えてご提案を進めてまいります。



MMWIN活用事例インタビュー マリン調剤薬局様



宮城県病院薬剤師会作成の「薬業連携ツール」は、宮城県内の多くの保険薬局で導入が進んでおります。MMWINに参加されている全23店舗にツールを導入されましたマリン調剤薬局 ゼネラルマネージャー 鈴木 健悟様に、医薬連携、薬業連携に関するお考えについてお話を伺いました。

1. はじめにMMWINの導入経緯について教えてください。

導入をした2018年は電子化が進められ始めた時期で、宮城県は被災地でもあり、また「患者のための薬局ビジョン」でも掲げられているように、今後さらに医薬連携、薬業連携、介護連携が進んでくると考えておりました。より質の高い医療、効率性が今後進んでいくのではと考え、当時23店舗全店導入に至りました。



マリン調剤薬局
ゼネラルマネージャー
鈴木 健悟 様

2. 日頃、MMWINをどのように活用されていますか。

MMWIN導入の病院、診療所が多くなり、患者様より進んでカードを提示していただける機会が増えてきました。メリットで挙げますと、検査値を把握できますので、医師による処方意図が読み取りやすいことがございました。特に減量、増量の理由が検査値より把握できると、患者様への服薬指導、服薬管理がより適切になる実感がございます。また、検査値の経過も確認できるので、薬の効果を薬局でも確実に確認できるのは、服薬指導の幅も広がると考えます。

3. 薬業連携ツール導入のきっかけ

薬機法改正により、服薬後のフォローアップが求められる時代になりました。今後、さらにトレーシングレポートの必要性、重要性が増してくるのではと考え導入しました。

また、病院、薬局双方にとって、できるだけ手間のかからない必要な事項のみ記載する形式なので、必要な情報をすくく抽出できる点も大きいのではと考えます。

4. ツールの活用方法

現在は、東北大学病院様へ入院予定の患者様を確認した薬局での情報を提供しております。内容としては、併用薬情報、患者様の基礎情報、服薬状況による留意点（一包化、粉碎ほか）など様々となっております。また、過去に副作用事例がある場合はその旨も提供するようにしております。薬の適正使用上、大変有用と考えており、服薬情報提供料3を算定しています。

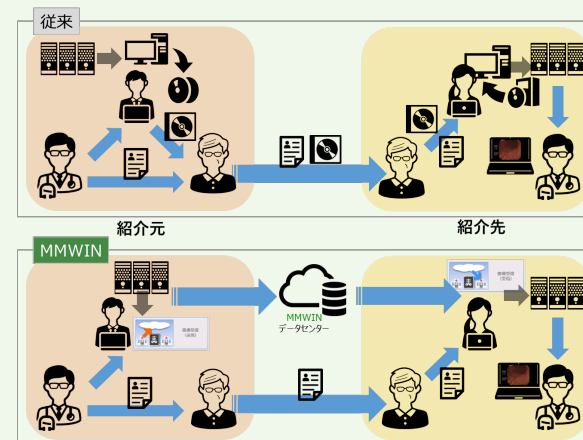
5. 今後の展望について

現在、薬業連携ツールは東北大学病院様を中心に展開されていると思います。個人的に、今後他の多くの病院が共通ツールを利用することで、情報の簡素化、効率化に繋がるのではと考えます。また、そうすることで今以上に薬業連携が進み必要な質の高い情報共有がなされ、よりよい医療提供へ導ける可能性を感じております。情報共有を通じて、薬局薬剤師は地域を支える医療人の一人として、よりきめ細かい対応ができればと思っています。

MMWIN 画像受渡機能操作性やメリットについて



デジタル化の遅れが指摘されている我が国の医療分野ですが、県内ではMMWINが提供する各種サービスの利用を見直す医療機関が増加しております。その1つのサービスとして、画像受渡機能があります。画像受渡機能の利用による一般的なメリットとして、紹介元で記録媒体（CD-R等）の作成が不要になるほか、紹介施設側の取り込み作業の時間帯が分散でき、患者さんの待ち時間解消等も期待できることが挙げられます。画像レポートを開示している施設（主に病院）もあり、MMWIN内で併せて参照が可能です。



- 1：MMWINのネットワークを介し、安全な通信網で受渡先と画像情報を受授できます
- 2：MMWINに加入していない患者さんの情報も取り扱えます
- 3：自院PACSとの接続により、PACSからの出力、PACSへの取り込みも容易です

かんのリズムハートクリニック 院長 菅野 裕幸先生に、その利用方法についてお話を伺いました。

開業して7年目に入りますが、昨年、電子カルテ更新のタイミングで画像受渡機能のシステムを導入しました。主に、公立刈田総合病院にCTやMRI検査を依頼する際に利用しています。循環器領域の造影CT検査や、カテーテル検査などはデータ量が多く、CD-Rが複数になるケースもありますので、画像受け渡し機能はデータ量の観点からもメリットがあると思います。

今後の期待として病院のサーバーのように画像が供覧でき、レポートも参照できることでしょうか。紹介の際も、自院の胸部Xp写真や超音波検査の画像が送信できるようになると利便性がアップするかと思います。今後も基幹病院の先生方や地域連携室などのご協力をいただき、画像検査の依頼や、画像受け渡しのシステムがなおスムーズで、一番に患者さんにとってメリットのあるシステムとなることを期待しています。



かんのリズムハートクリニック
院長 菅野 裕幸 先生